



# 中央大学 理工学部 電気工学科同窓会々誌

題字は広瀬会長

第7号

発行所 東京都文京区春日1-13-27 中大理工学部電気工学科同窓会 TEL 813-4171 (内) 245~6

## 巻頭言

会長

廣瀬敬一

今年もまた同窓会を開催して、卒業生諸君の元気な姿に接し卒業生諸君の活躍の様子を知ることができているのも、この上ない楽しみになっている。もうわが中央大学理工学部も卒業生を世の中に送り出すことが十四回となった。もう初期に卒業生を輩出諸君は相当の責任ある地位にあって、社会のためまたわが中央大学のために思う存分腕を奮って居られることと確信している。昔から教師というものの最大の喜びは「出藍の譽」であるし、またわが電気科の後輩のためにも、せむとも諸君ら先輩がせむ大成されることを心から祈念するところである。

気がかわれぬ今春の九十業生の就職も、諸先生や就職部職員のためには、いぬ力によって、どうやういぬ完全就職に近、就職率

を達成したが、これにもまた諸君ら先輩のお蔭であると思ふ感謝している次第である。

電気工学科の今年度の人事としては、新しく電子工学半導体の權威北村先生を迎えられたこと外には、事務職員が二三の異動があっただけであるが、大学院学生を勤員して学生の演習その他を充実させることを大規模に行なうことにした事などである。

海外留学としては四十年間には吉久先生が欧米各地へ留学され学会出席、諸大学および諸施設の調査などを兼ね、多大の成果を挙げて帰国されたが、四十年間にはすでに福沢先生が電気工学科の第四番目の送手としてアメリカへ向けて元気に出発されたが、まことに御同慶に耐えない。同君の旅の安全と、目的達成とを心から念願する。

世の中は政府の不景気逐放の奴力にも拘らず、いまだその効果は大して

現われぬが、今年下期からは多少は景気好転の兆が現われると期待される。この時機にこそ卒業生諸君の奴力が報いられるのであるから、大いに自重され奮闘されることを期待する。われわれ電気工学科教職員一同も卒業生諸君の期待に背くことのないように精進する覚悟である。

## 海外留学

の思い出

吉久 信幸

昨年四月から九月まで約五ヶ月、アメリカとヨーロッパを廻り、大学や研究所、会社、放送局などを見学し、地下鉄その他の交通機関の騒音レベルを測定してきました。九月上旬にベルギーで第五回国際音響学会があり、それに出席し、研究発表をしました。下手な発音ですが、何とか通じたようで、数個の質問が

ありました。フランス語の質問もあって、ちょっと困りましたが、司会者がすぐに英語に通訳してくれて意味が解りました。なおこの次のオ六回国際音響学会は三年後に日本で行われることが決っています。

色々の思い出がありま。お会いした時に質問して下さい。ちよっとメモしますと、アメリカで美しかったところは、ハワイ、サンフランシスコ、グランドキャニオン、デンバワシントン、ホストン……。それかうポトマック公園の桜は感慨無量でした。

ヨーロッパへ行って、ロンドンの古い建物におどろきドイツではビールを朝から楽しみ、ウィーンでは音楽会へ行ったり丘に登ってドナウを眺めたり、スイスの山と湖水と美しい花壇のある町インターラーケンとツェルマットで一週間過ごし、パリではぶどう酒と料理などを楽しみ、マドリッドではフラメンコに



もめずらしくない。ソ連で一番要求している機械は国際的にも最高の性能を有するもので、研究室で使用される様なものが人間的となる。一般の工場で使用される機械は不人気の様である。その故は、現在、各工場がノルマ達成が一〇〇%である。それ以上ある必要性に乏しい。ゆえに、予算獲得の難かしさとPRの不足にある様な感じがする。

固苦しい。話はこれ位にして日本男性を喜ばしたのは何と云っても、独身女性のスタイルの良さである。モスクワ河の遊泳所に行くといふ。これ最も最小のピキニスタイルで日焼を染し、寒い冬に備えている。どう云う訳かわからぬが鼻の頭だけは日焼した。様に三角形の紙を貼付けている。晴天の日は日本の夏と同じである。雨が降ると急に寒くなるので子供連れは夏でもセーターを持ち歩いてい。雨が降っても傘を差す人は年寄り位で若くはベック等は雨の中を平気で散歩している。その様でホテルを飛び出すと

ずぶぬれになる。ある日、ホテルの都屋にいるヒエラジヤ(日本のヤシ)がやって来て、ペラペラやり出した。初めはさっぱり見当がつかないが、どうやら私がいつかベクトを直したり、都屋を掃除したりしている。出ていってらして。これは何か破した。だんだん感じ、ネチケケレフを差せたら、喜んで「スパシーバ」をくり返して、その後何となくサービスも良くなった。様だ。ニ三年前まではトランジスタラジオは品不足であった様だが現在ではテパートでほとんど発売し、日本の価格より少し高い位である。しかしテラレコクタ等は小型のものがある。機械の解説をするためにロシア語を吹き込んだテラレコクタの方に人垣が出来て困った。モスクワの地下鉄は世界的にも有名であるが、その通りで、地下10階位の所を電車が走っていて、全部エスカレーターで昇降する。エスカレーターのスピードは日本の二倍位のスピードで角度もある。地下鉄に乗るために、まず五カバク玉を用意し、改札口の投入口

### 英国マンチェスター大学 滞在記

#### 電気試験所

才八期生伊藤登  
 一九六三年九月にマンチェスター大学 C. Adamson 教授から招かれて、一年余同大学の Power systems Lab. で直流送電の指導と研究を行つてきたが、その間に見聞したことをのべていと思う。

私共の研究所に於ける直流送電の研究は内外ともに高く評価されておられ、力事情により直流送電の必要性を痛切に感じている英国ではその研究に熱心であるが研究者及び研究指導者が不足しているのが、我々の協力も申入れて、現在同大学及びロンドン大学、CITRO (中央電力庁) と協同研究の物をもつて、研究を進めている。

の P.D. コースがある。私のこの研究所は Manchester College of Science and Technology の中で M.Sc. (Tech) コースの学生及び講師 (日本の助教クラス) 教授と我々の如き特別研究者で形成されている。私のこの研究所では学部生と大学院生は学生はほとんど同数で、半ばは学部生の方が多い。

学部生はほとんど同数で、半ばは学部生の方が多い。学部生はほとんど同数で、半ばは学部生の方が多い。学部生はほとんど同数で、半ばは学部生の方が多い。

英国の大学制度について、工学系のみを圍繞して、ならば、学部は三年でこれを修了すると B.Sc. がもう之を引き続いて二年コースの D.Sc. 二年コースの M.Sc. 大学院があり、これら修了後さらに大学院には二年以上

一九六三年一月、ロビンズ卿がよつて出されたロビンズ勧告書によれば、いわゆる専門学校 (College of Advanced Technology) を University とする五つの特別研究所を材料技術の中心とする。

所は Manchester colleges, Glasgow Univ. & Royal College, London Univ. &

Imperial College については

してあり学生のインテリジェンスは高く大学院重視の college の要りのつゝある。M.Sc. Ph.D. コースの学生をみては学部は他の大学で修了して来たものが多い。のたがまには殆んどが P.D. (Manchester) M.Sc. (London) の如く書くと

でネームバリューのある大学で大学の傾向はあつた。大学の者以上は収入にもありつける。國がであるから河がな

んでも大学を出すとどうなるか。大学はゆるゆるに勉強もよくついでいる。学部遊びもよくついでいる。学部大学院と通してゐることも

だが実験の時間が非常に多い。日本の大学に比して授業時間は数少ない。基礎科目はみづからやるが

よけいなことは一切やらない。大学によつて異なる。もうがマンチエスターでは学部が二年間は共通で基礎をのちりやる。残りの一年間は各研究所に行つて勉強する。電子工学をやりたい者は Solid State Lab. あるいは Computer Lab. 電力工学は Power systems である。この二つは

はじめのうちに入る。学部は担当講師各二名、学生は M.Sc. 学生各四名、五名ついで二名。約三名の実験をみる。一班約三名で一班は常々一人の指導者をつく。指導者は実験中は必ずそばにいて相談の出来るようになっている。実験にはバンフレットがあるが

学生もそれだけやれば済む。この中でなくともこの程度で検討してゐる。実験用具は古いものが多いが使用の方によつて大なる効果も上げられるものがある。講義内容

は日本よりもやさしい。そのまゝ教えてゐるが実験はな

り程度の高いのをこなしてゐる。又新しいものもどんどん心用してゐる。指導者は P.D. 及び M.Sc. の学生

は半ドンであるが、大学院学生は生かす。五日でも毎日朝

から夜迄研究所でしぼり出している。私の仕事は自分

で研究するからわづらひ M.Sc. 学生の研究指導であり、多きは彼らと検討する時間。時まつてやして、彼等は非常に討論す

まであり決して中途半ばな事協はしない。いつもなつていく。このような態度は私も大いに学ぶところ

多かつた。帯任期間、この間の(国際大電力網会議)に出席し、在野一流の研究者、教授に会い親しく話

あう。研究会もあつた。電気技術のあり方、研究方法等、数年で大なる変化をみせてゐることを感じ、ついで多くの大学を見学し、時代のな

### 関西支部結成案内

昨年の同窓会誌上に提案したわけですが、其後会員皆様からの要望も多くなり、また七月に会長

廣瀬敬一初め数名の先生が京都に行く事になりましたので、其の機会に関西支部を結成したいと思つて

す。本件について総会に計り賛同が得られれば関西方面の方々に其の旨御通知申し上げ、御協力願うことに致したいと思つてお発起人代表に四期生

垣田氏をお願いして強力に推進して戴きたく、関西方面の方々の御協力を望んでお願致します。

### 朗報

本学助教教授遠藤正雄(才四期)は去る五月三十一日に電気学会より一昨年八月発表の同氏の論文「計算機による放電率曲線のシミュレーション」として、経電圧の信頼度の推定に対し、学術振興論文賞を贈られた。同窓生一同誠に御同慶の至りである。

オ四期生、山口若男氏  
昭和四十年オム賞を受賞

新入会員を代表して

オ西期 荒牧成光

我々オ西期生(一九九名)は例年  
に、経済界の不況による就  
職難を克服し、今漸く新し  
諸先輩の仲間入りをするこ  
なり。我々は漸く充実  
してきた中大理工学部とこれ  
生ケ育てた諸先輩との間に  
は、より一層中大電気を豊  
かにするに努めたいと思  
置にあると思われ、良き  
先輩の指導を受け、また  
後輩のよき相談相手となり  
この同窓会を一層充実する  
助けとなれば幸いです。社  
会に出たからは、その責任と義  
務とに迫りまわされることば  
十分社会に貢献できるよう  
奮闘するつもりです。  
先輩の皆さん、どうぞ宜しく  
お願い致します。

### 北村教授就任

既にお聞き及びの向きもあるか  
と思ふが、本年四月一日付をも  
て工学博士北村覚一先生  
が本学教授として就任され  
た。先生は今まで電気試  
験所にて活躍され、半導体

関係の權威として学会等に  
も広く名前を知られており、  
先生(25年東大卒)の力によ  
り中央大学電気工学科  
も大いにその力を増すこと期  
待して居る次第である。我々同窓  
生としては、先生の本学へのお  
いでも心から歓迎すると共に、  
今後の御研究の発展並に  
に後進の御指導を願そ  
止まない。

### 寿



### 結婚

オ六期 飯田彦彦 5.22  
オ八期 音藤春彦 2.27

小川宏 4.11.14  
鈴木敏恭 4.11  
大木正文 4.11.14

オ十期 大木正美 4.26  
オ五期 杉森勝宣 4.17

### 赤らん誕生

深井先生 待望の女子陽子(赤らん)  
オ七期 寺西孝彦(赤郎)くん  
オ六期 市川友之(琴美)ちゃん

### 記

長年、宜き同窓会の仕事を手伝  
て、また電気科事務員矢野崎都持  
子氏は昨年十月結婚、退職、石川  
子嬢は転職、同窓会として有力な  
協力者も失い、非常に痛手です。  
三に長年の御協力に對し厚く  
感謝し、今後の御多幸をお祈り  
致します。

(二頁、モスワ、雑感、感、感)  
に入れると、ラフが英灯し。  
改札口通過可能となる。  
もし、お念を入れないで通  
過しようとすると、光電池?  
により検出され、たらまら  
うらに通行止め、棒が出る  
仕掛けになっている。

とにか、いまソ連は日本アム  
でカ左(セシサビスの食堂)  
で食事をしている。話し  
かけられる事が多い。ある  
時、モスワワ大学を出る人  
が話しかけて来て、我々は  
同じ東洋人、いや、なか仲  
良くしよう、本当に親し  
げに握手して別れたり、或  
る人は、ウチカを御馳走  
してくれ、又、おれは日本人  
か、おれは日本人が腹を切  
るのを見たとか、日本人はす  
ぐ腹を切る、いや、いや、い  
と云ってくる人もいて、日本  
を良く知らない人も多い。  
モスクワのある市民は、我々  
は本当に生活が良くなり、  
平和であれば、誰かが首相  
でも構わない、と真剣に  
話していたが、大部、分、人  
は、それ程政治に関心がある。

うにも思われなかつた。  
しかしソ連は偉大國であ  
る自信と誇りを皆持つて  
いた様に思われる。  
また、また、私の感じた事は  
沢山あります。が、この辺で御  
容赦下さい。

### 編集後記

毎年同窓会誌を発行して  
居りますが、会員各位からの原  
稿や近況報告がなかなか  
集まりません。どうして内容が  
片寄ってしまう傾向があります。  
どうか、会員各位の移動、近況  
をいし、お知らせ下さい。  
最後に会誌発行に對し御  
協力頂いた皆様、厚く感  
謝致します。

### 会誌幹事

会費変更、懇身、会費、前の  
卒業生の皆様で、会費不足  
分未納の方は、ぜひお納め下さ  
り、よう、重ねてお願い申し上げます。  
なお、不足分不明の方は、同  
窓会までお問合せ願えれば  
幸いです。

### 会計幹事

